

～3年がかりの挑戦～
トマト栽培へのあくなき追及

東京ガスエネルギー株式会社
千葉支社 青木 圭司

物件概要

物件名 : 株式会社ハルディン トマトハウス
所在地 : 千葉県印西市竹袋
設備概要 : 空調設備 GHP 株式会社アイシン社製
30馬力×4台 計120馬力
ガス設備 980kg 縦型バルク貯槽×2基

1. 初めに

今回ご紹介する株式会社ハルディン様は、長野・千葉・軽井沢・中国に農園があり、生花を中心にハーブや果物・野菜を生産販売しており、過去には日本農業大賞や農林水産祭の天皇賞を受賞した実績もあり、某大手トマト製造・製品・販売会社のトマトの研究・生産を請負っておりトマトの苗の生産では国内トップクラスの実力と実績のある会社様でございます。現在、事業の中核を担っておりますのが千葉県印西市のトマトハウスであり、今回はこちらのトマトハウスへのGHP空調の新規導入・成約に至った事例をご紹介します。

2. 提案経緯

3年前のHVAC&R JAPANのイベントの時でした。

アイシン様のブースにて営業のY氏と私で「今日也大盛況で来場者も多いですね」と話をしていた時、突然現れたのがハルディンのS社長、S常務でした。

「このGHPとはどんな機械なのですか？」と唐突に質問されてきました。

Y氏と私で「GHPとはガスエンジンを動力源として冷暖房を行い、EHPと比べて電力消費量が少なくエネルギーの分散化にもなる超高効率な空調機ですよ」などの基本的な説明をして「アイシンは車の部品も作っている世界でも有名な物作りの会社ですよ」と雑談も交えて話をさせていただき少し興味を持たれている印象でしたので、名刺を交わしてその後は来場者も多くY氏も私もお客様対応があり、その場は何事もなくイベントも終了しました。

しかし数日後、アイシンのY氏から電話が来て「この前のイベントの時に話をしたS様のことを覚えていますか」と電話が有り、「実はS様から連絡が来て話があるので私と二人で来てくれないか？」と連絡が入ったとのこと、その後S様の元へ伺いました。

S様より開口一番「この前はありがとう、実はGHPを使ってみたいのだが」といきなりのお言葉にY氏と私はビックリして言葉を失いました。

ハルディン社のことは連絡があった時に事前に調べはしていましたが、お取引も無いのに突然の発言には驚きました。そこでS様に「何故唐突にGHPを？」と質問を投げ掛けました。すると、「イベントのあの日は色々なブースを見て何か良いものは無いかと考えながら回っておりアイシン様のブースに立ち寄りGHPの話聞き非常に興味を持った」とのことでした。私はもう少しハルディン様の農場のことについて質問をしたところ、「トマトの育成に関して環境を整えていきたい。ブランド化の進むトマト市場にもさらに付加価値、差別化を行いたい」とトマト栽培に掛ける強い思い、あくなき追及への思いを感じて【何かお力になれないか】と考えました。

その後、農場に案内されS様より「青木さん、トマトは苗の育成環境によってその後のトマト品質が全て決まります。高品質のトマトを作るにはより良い環境での育成をしたい。しかし夏場の育成に関して温暖化の影響で気温が上がりすぎて、ハウス内でのトマトの苗を栽培することが出来ない。トマトハウスに空調を設置して温度を下げて夏場の日中でもハウス内で育成が出来ないものか、研究も兼ねて計画したい。昼間は陽射しを遮らないようにして太陽の光を浴びながら育成できないものか？」とのかかなりの難題をぶつけられました。受電量の問題などもあり少し暗礁に乗り上げていた時に空調イベントでの私たちの話がマッチしてGHP空調計画を実行してみたいと、何かドラマのような運命的な出会いを予感しました。

まずは規模感や希望温度を聞いて基本スペックの空調設計をS様・アイシン様と共に作り上げていきました。規模はビニールハウス2棟分、ハウス内温度は夏場の夜間で25℃程度をイメージしておられました。負荷に関しては気候状況によって変動が大きいので、弊社でも供給している洋蘭園の負荷および現場の状況、生産者にもヒヤリングを実施してスペック内容を設計しました。ハウス両端に30馬力を1台ずつ計30馬力×4台（床置きダクト型×4台）をスペックとした仕様にして温度制御には洋蘭園でも実績のあるマイキング2200を設置する設計としました。

しかしハウス内に30馬力の床置きダクト型を設置しようと考えると室内機の高さや置場の問題で設置が出来ない状況でした。幸いにもハウス周辺に設置可能なスペースがありましたので室内機用の囲いを設けての設置となりました。ハウス内への冷暖風の供給は陽射しを遮らないネポン社製のビニールダクトを設置することとなりました。

LPガス設備に関しては980kgバルクを両脇に1基ずつ計2基の設置で計画しました。設置工事に関しては、農業系の補助金を活用しての計画となり急ピッチで見積・積算を行い補助金事業への申請、採択待ちとなりました。

しかし計画初年度の補助金は不採択となってしまう翌年への再チャレンジとなりました。翌年、台風の影響によりビニールハウス設備が故障し設備改修に費用がかかり、さらに補助金申請はしたものの不採択が確定しGHP空調計画自体がなくなってしまうのではない

かと不安がよぎりました。コロナウイルスの影響も有り、あきらめかけていた時にS様から「再度連絡が有り今年度は確実に補助金申請を行い実行に移しますよ」と心強いお言葉をいただきました。補助金採択予定日連絡はない。その後も連絡はない。そして週明け月曜日、S様より「先ほど補助金の採択がございました」と連絡が入り、すぐにアイシンのY氏へ連絡、「あきらめないで良かったよ」とまずは喜びを分かち合い安堵いたしました。翌日、S様の元へお礼を兼ねて訪問しGHP設置に関しての打合せを行いました。ところがS様より思いもよらぬ話がありました。「実は昨年の台風被害により計画しているビニールハウスが破壊されてしまった」とのこと。だが「他のビニールハウスで計画をするので再度現場状況を確認して欲しい」とお願いされ、設置スペースの問題もあるので早急に現場確認を行いました。離隔距離など若干狭くなる問題もありましたが設置は可能であるとの判断になりました。



3. 施工と検証

機器の納期の関係上6月末～7月末の梅雨時期の工事となり天候が心配されましたが、猛暑・酷暑に遭遇して工事作業員や施工管理者には非常につらい時期の工事となりました。雨を予想した工程と熱中症対策でなんとか無事に工事が完了いたしました。

心配していたハウス内温度の検証も夜に関しては思いのほか温度も下がり目標温度をクリアしました。昼間の時間帯もハウス内送風機を活用することによりマイキングの履歴では最高温度が28℃となり「効果が出そうだよ」とS様からお話がありました。

さらに「引き続き今回の実証で良い結果が出れば他のハウスでも計画したいのでその時はまたお願いしますね」とうれしいお言葉もいただきました。

4. まとめ

空調計画を行ってから紆余曲折がございましたがS様の【トマト栽培へのあくなき追及】熱い思いが有り、その思いに動かされた私の思いも重なり導入出来ました。

お客様側や私だけの一方的な思いではなく両者の思いが一致して初めて素晴らしい導入案件が出来上がるとしみじみ感じました。今回の案件を元にGHPの良さをもっと色々な分野のお客様に周知して提案活動に努めてまいりたいと思います。

またご尽力をいただいた株式会社アイシン様には非常に感謝いたします。

ご清聴ありがとうございました。